

# 北海道浮魚ニュース

平成 29 (2017) 年度 23 号

2017 年 11 月 14 日

道総研 函館水産試験場

ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

## ◎ 11 月道南太平洋スルメイカ調査結果

道南太平洋のスルメイカ分布密度は過去の調査結果と比べ非常に低い。

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：2017 年 11 月 6 日～11 月 10 日
- ・調査海域：道南太平洋、津軽海峡

昨年 (2016 年 11 月 7 日～11 月 8 日) 及び過去 5 年のデータと比較しました。

### 1. 水温 (図 1)

漁獲調査点 4 地点の表面水温は 14.4～16.0℃、水深 50m の水温は 11.9～16.1℃の範囲にあり、いずれも下北半島東沖 St.8 (表面 16.0℃、50m16.1℃) が最も高く、浦河沖 St.15 (同 14.4℃、11.9℃) が最も低くなっていました。水深 50m 層の水温は 10～16℃台にあり、日高沖から渡島太平洋にかけての沖合と下北半島以南の沿岸に周囲より水温が高い海域がみられました。

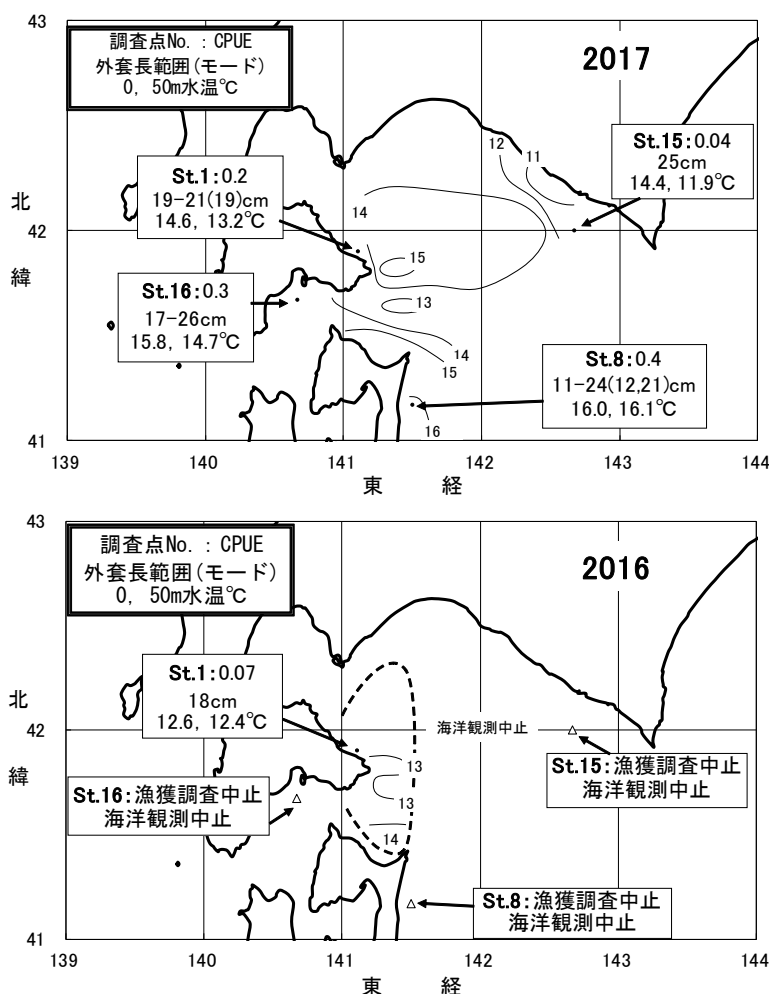


図 1 2017 年 (上) と 2016 年 (下) の漁獲調査結果と水温。●は漁獲調査点を示し面積は CPUE に比例。△は漁獲調査中止。等温線は 50m 水深の水温分布。2016 年の点線は海洋観測の範囲

表 1 2012 年以降の各調査地点の CPUE と海域全体の魚体サイズ

	2012 (H24) 11/5-11/9	2013 (H25) 10/28-11/1	2014 (H26) 11/11-11/12	2015 (H27) 11/11-11/13	2016 (H28) 11/7-11/8	2017 (H29) 11/6-11/10
St. 1(木直沖) CPUE	3.0	6.1	-	0.7	0.07	0.2
St. 8(下北半島東沖) CPUE	0.2	0.9	-	-	-	0.4
St. 15(浦河沖) CPUE	-	53.7	10.2	-	-	0.04
St. 16(函館沖) CPUE	0.9	0.5	-	-	-	0.3
平均CPUE (尾/台・時間)	1.4	15.3	10.2	0.7	0.07	0.2
外套長の範囲 (cm)	4-25	15-29	21-28	20-28	18	11-26
各地点の外套長モード (cm)	19, 22	16-24	25	21	18	12-21

## 2. 分布密度 (図 1、表 1)

漁獲調査点 4 点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間あたり漁獲尾数) は 0.04 ~ 0.4 の範囲にあり、4 調査点の平均 CPUE は 0.2 で 2012 年以降 (過去 5 年) では 2 番目に低い値でした。最も CPUE が高かった調査点は下北半島東沖 St. 8 (0.4) でしたが、過去の調査で最も分布密度が高かった調査点と比べ著しく小さい値となり、調査海域全体の分布密度は非常に低いと考えられます。

## 3. スルメイカの大きさ (図 1 ~ 2、表 1)

漁獲されたスルメイカの外套長は 11 ~ 26cm (昨年 18cm) の範囲にあり、海域全体の外套長のモード (最も多く出現した体長) は 21cm でした。下北半島沖 St. 8 では過去 5 年にほとんどみられなかった外套長 11 ~ 13cm の小型個体が出現し、海域全体の魚体サイズは過去 5 年に比べばらつきが大きくなっていました。

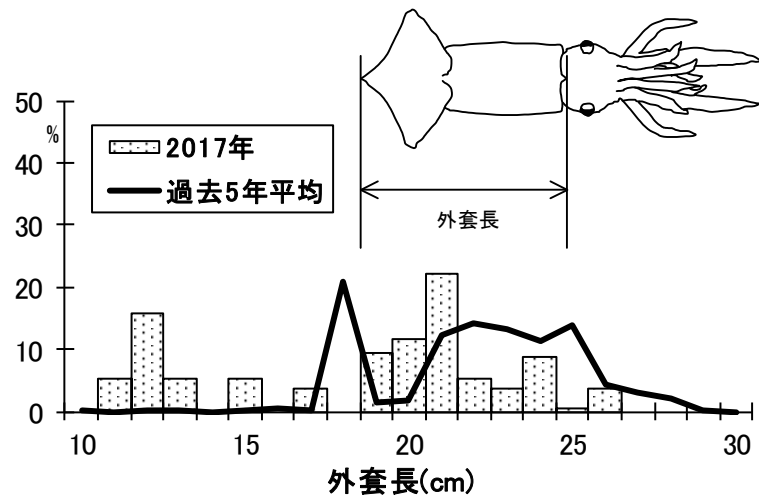


図 2 海域全体のスルメイカ外套長組成

(函館水産試験場調査研究部 TEL : 0138-83-2893、FAX : 0138-83-2849)